

# 荒ぶる川“荒川”から暮らしを守るために

## 洪水を防止すべく行われた歴史的な二大工事

美しい自然と水に恵まれた荒川は、豊かな漁獲と舟での運送業などにより、むかしから流域に住む人々に大きな繁栄をもたらしてきました。しかしその反面、荒川は頻繁に洪水を起こすことでも有名です。そのため先人たちは、さまざまな水害対策に取り組んできました。



安政六年(1859)の洪水の図(坂戸市)  
画像提供: 林茂美氏

## 伊奈一族による荒川大改修

荒川の氾濫の記録は古いもので平安時代に書かれた文書が残っています。そんなむかしから人々は洪水の被害に悩まされていたのです。

そこで江戸時代の1629年に計画されたのが、荒川の流を変えてしまおうという大改修。これは熊谷市久下付近でそれまでの流れを止めてあたらしい河道を作り、入間川支流へと合流させるという大がかりな工事でした。荒川の流を埼玉平野の東部からそらすことで、今まで頻繁におこっていた洪水をなくし、水田地帯を守るとともに新田開発も促進。さらには木材を運ぶ舟の道を確保するという目的もあったようです。

この工事を指揮したのが、伊奈備前守

ただつぐ忠次の息子半十郎忠治という人物で、父親の忠次も荒川に堤防を築いた人として知られています。荒ぶる川の水害対策に親子二代で立ち向かった伊奈一族の名前は荒川の歴史に深い尊敬とともに今ものこっています。

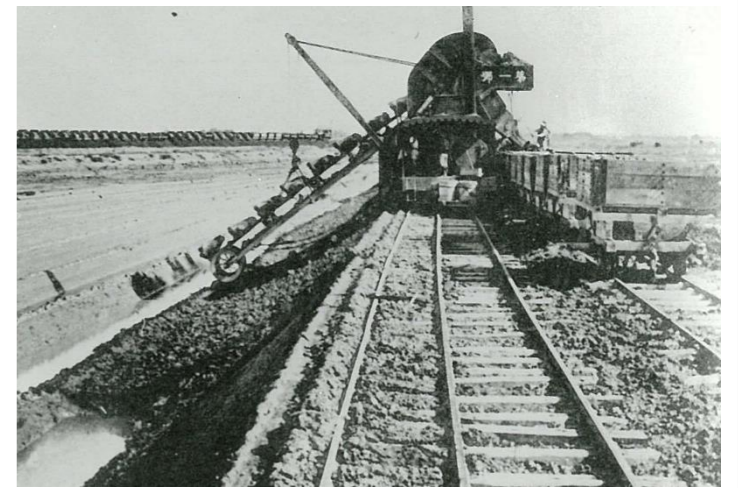


伊奈忠治の像

## 人工の川、荒川放水路

明治43年8月に発生した洪水の被害は甚大で、堤防を越えて街に水が大量にあふれ出たといわれています。

このような大洪水の被害を二度と繰り返さないために計画されたのが、人工の川“荒川放水路”。上流から流れてくる荒川の水を、隅田川と放水路にわけることで、隅田川に集中していた洪水を分散させました。



▲着工から19年、昭和5年に完成した荒川放水路

## むかしと今の荒川を比べてみると…

現在の荒川は、熊谷市の西方からJR高崎線の西側を流れ、東京湾に流れ込んでいます。しかし、大むかしからこの流れだったというわけではありません。

### 江戸時代以前



江戸時代より前の荒川は、東京湾に流れ込んでいた利根川の支川で、現在の元荒川の流れでした。

### 江戸時代～大正時代



江戸時代になると、荒川は熊谷市久下あたりから新しい河道が作られ、和田吉野川と合わせて入間川とつながりました。

### 現在



荒川放水路が作られ、それまでの荒川が隅田川、そして新しくできた放水路が荒川とよばれるようになりました。